



ティー・ブレイク

NO.83

腕時計と携帯電話

最近腕時計をはめない人が増えているそうだ。私の周りでも意外と多い。理由を聞くと、携帯電話を見れば時間が分かるからという。今や携帯電話は一人一台の時代になり、背面ディスプレイのおかげで時間も見やすい。なるほどと思った。そういう意味では、時計に対する概念も年々変わっているのであろう。

その一方で、機械式のスイス製腕時計の売上がここ数年急増していることをご存じだろうか？ クォーツ式の時計とは異なり、時計職人が組み立てた機械式の腕時計が見直され、売れ行きが好調のようである。クォーツ式時計とは異なり、機械式時計は無数の歯車、ゼンマイ等が数センチ角のケースの中で複雑に協調しあって動作して時を刻んでいる。当然、クォーツ式に比べて精度は極端に悪く、値段も高い。だが、皆大枚をはたいて買っていく。

かくいう私も、機械式の腕時計が大好きだ。私が最も魅力を感じるのは、自分で時間を作っているという感覚に機械式腕時計が陥らせてくれるところにある。自動巻の腕時計は、腕を振ることによってゼンマイが巻き上げられ動き出す。完全に巻き上げた状態でも、放置していれば2日間ぐらいで止まってしまうが、自分が活動している限り、つまり生きている限り、一緒になって時を刻んでくれる。仕事に行く前は毎朝時計を選び、止まっている時計のゼンマイを巻き、腕時計に魂を与えてやる。あとは自分の体の一部となって時を刻んでくれる。小さな歯車が数センチ角のケース内で噛み合い、針がチクタクチクタク動く様には感心する。

ところが困ったことに、私の収集癖からか、普通の腕時計ではもの足りず、だんだんマニアックな腕時計が欲しくなってきた。最近購入した腕時計は、3つの異なる時間帯の時刻を知ることができる。2つの時間帯の時刻を知ることができる腕時計は多数あるが、一つの腕時計の文字盤に3組の長針と短針とを備えるものは少なく、しかも各時間の操作は一つのリューズだけでできてしまう。このメカニズムについては既に特許を取得したそうだ。もともと各地の為替状況を問い合わせたい銀行員からのリクエストにインスパイヤされて開発したそうだ。

機械式時計は、数年に一度オーバーホールも必要だし、時間の精度も甘い。しかし、時間に追われる我々の仕事の中で、多少アナログな道具と共に仕事をするのも良いのではないかなと思う。

(英)